

待降節第3主日礼拝説教「まっすぐの道を備えて」

日本基督教団石神井教会 2017年12月17日

【旧約聖書日課】イザヤ書 40章1～11節

- 1 慰めよ、わたしの民を慰めよと、あなたたちの神は言われる。
- 2 エルサレムの心に語りかけ、彼女に呼びかけよ、
苦役の時は今や満ち、彼女の咎は償われた、と。
罪のすべてに倍する報いを、主の御手から受けた、と。
- 3 呼びかける声がある。
主のために、荒れ野に道を備え、わたしたちの神のために、荒れ地に広い道を通せ。
- 4 谷はすべて身を起し、山と丘は身を低くせよ。
険しい道は平らに、狭い道は広い谷となれ。
- 5 主の栄光がこうして現れるのを、肉なる者は共に見る。
主の口がこう宣言される。
- 6 呼びかけよ、と声は言う。
わたしは言う、何と呼びかけたらよいのか、と。
肉なる者は皆、草に等しい。永らえても、すべては野の花のようなもの。
- 7 草は枯れ、花はしぼむ。主の風が吹きつけたのだ。この民は草に等しい。
- 8 草は枯れ、花はしぼむが、わたしたちの神の言葉はどこしえに立つ。
- 9 高い山に登れ、良い知らせをシオンに伝える者よ。
力を振るって声をあげよ、良い知らせをエルサレムに伝える者よ。
声をあげよ、恐れるな、ユダの町々に告げよ。見よ、あなたたちの神
- 10 見よ、主なる神。彼は力を帯びて来られ、御腕をもって統治される。
見よ、主のかち得られたものは御もとに従い、主の働きの実りは御前を進む。
- 11 主は羊飼いとして群れを養い、御腕をもって集め
小羊をふところに抱き、その母を導いて行かれる。

【使徒書日課】ペトロの手紙二 3章8～14節

⁸愛する人たち、このことだけは忘れないでほしい。主のもとでは、一日は千年のようで、千年は一日のようです。⁹ある人たちは、遅いと考えているようですが、主は約束の実現を遅らせておられるのではありません。そうではなく、一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられるのです。¹⁰主の日は盗人のようになって来ます。その日、天は激しい音をたてながら消えうせ、自然界の諸要素は熱に熔け尽くし、地とそこで造り出されたものは暴かれてしまいます。¹¹このように、すべてのものは滅び去るのですから、あなたがたは聖なる信心深い生活を送らなければなりません。¹²神の日の来るのを待ち望み、また、それが来るのを早めるようにすべきです。その日、天は焼け崩れ、自然界の諸要素は燃え尽き、熔け去ることでしょう。¹³しかしわたしたちは、義の宿る新しい天と新しい地とを、神の約束に従って待ち望んでいるのです。¹⁴だから、愛する人たち、このことを待ち望みながら、きずや汚れが何一つなく、平和に過ごしていると神に認めていただけるように励みなさい。

【福音書日課】マルコによる福音書 1章1～8節

¹神の子イエス・キリストの福音の初め。

²預言者イザヤの書にこう書いてある。

「見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、あなたの道を準備させよう。」

³荒れ野で叫ぶ者の声がする。『主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。』」

そのとおり、⁴洗礼者ヨハネが荒れ野に現れて、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。⁵ユダヤの全地方とエルサレムの住民は皆、ヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。⁶ヨハネはらくだの毛衣を着、腰に革の帯を締め、いなごと野蜜を食べていた。⁷彼はこう宣べ伝えた。「わたしよりも優れた方が、後から来られる。わたしは、かがんでその方の履物のひもを解く値打ちもない。⁸わたしは水であなたたちに洗礼を授けたが、その方は聖霊で洗礼をお授けになる。」

もう間もなく！

アドヴェントの三本目のロウソクに火を灯しました。三本目のロウソクは、四本のロウソクの中でただ一つ、紫色ではなくピンク色（バラ色）のものを用いています。待降節は、降誕祭に備えてキリスト者が悔い改めの祈りを深めるときとして、紫色の典礼色が用いられてきました。その悔い改めの期節の中で、待降節第3主日を古くからの伝統で「喜びの主日」と呼び、この日だけは紫色ではなくバラ色の典礼色を用いるという習慣が生まれました。悔い改めの期節の中で、この日だけは、悔い改めよりも喜びを強調する。そのことにあわせて、アドヴェントのロウソクを、この日、バラ色（ピンク色）のものとするということが行われるようになってきたのです。

しかしながら、今日の聖書日課は、むしろ、あらためて「悔い改め」に心留めるようにと、わたしたちに教えているようです。福音書日課は、**罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えていた洗礼者ヨハネが取り上げられ、使徒書日課・ペトロの手紙二にも、「主は…一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられるのです」と**ありました。

今日は、午後、少しばかりフライング気味ですが、こどもたちのためのクリスマスの礼拝と祝いの会をいたします。中でもこどもたちと共につくるページェント礼拝は、聖書朗読とキャロルの讃美によってクリスマスの物語をつづる降誕劇として整えられていますから、こどもたちだけでなく、皆さんにもぜひ加わっていただきたいと考えています。その降誕劇の終わりに告げられるのは、「**神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された**」（ヨハ 3:16）という聖句です。この聖句は、こう続きます。「独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」。今日わたしたちが聞いているペトロの手紙の「**一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと**」との御言葉の響きは、クリスマスを告げる御言葉の響きと重なり合うものなのです。

今年も間もなく迎えようとしているクリスマス。このときに、わたしたちは、「一人も滅びないで」という、神の忍耐深い御心を心に留めたいのです。

御子を迎える備えのために

クリスマスを迎える備えとして、わたしたちは、ふさわしい飾りつけをいたします。今年は、有志の皆さんがクリスマス・リースを手作りする会を催してくださいました。今年も、有志の皆さんがクリスマス・リースを手作りする会を催してくださいました。その延長線で、教会学校のこどもたち一人ひとりのためにも、小さなリースを造っていただきました。

もちろん、会に参加されたかどうかに関わらず、多くの方がご自宅でリースを飾られて、クリスマスを迎える備えとなさっていることでしょう。リースばかりでなく、特に小さなこどもがいるような家庭ならば、クリスマス・ツリーは不可欠の飾りかもしれません。あるいは、電飾イルミネーションで飾るのも、最近では広く行われていることです。クリスマスの日まで、わたしたちの教会や家庭だけでなく、あたかも世界中が、御子キリストを迎えるための備えをしているような光景を、わたしたちは、今年も目の当たりにするのです。残念ながら、多くの人々は、クリスマスの日を迎えることはあっても、御子を迎えることなく、大急ぎで新年を迎えるための飾りつけに取り換えてしまうかもしれませんが。

そうだからと言って、わたしたちは、「本当のクリスマスは教会で！」と声高に訴えなくてもよいでしょう。もちろん、「クリスマスには教会へ」とご案内はいたします。今年も、皆さんにもご協力いただいて、たくさんのチラシやハガキを配布しています。それは、普段教会に縁のない方でも、クリスマスという、だれもが知っている機会に足を運んでいただければ、と願ってのことです。

むしろ、わたしたちは、世の中がクリスマス一色になるさまを目の当たりにしながら、そこにある神の御心を考えないわけにはいかないと思います。「一人も滅びないで」との御心によって、かつて忍耐して独り子を世にお送りくださった神は、今に至るまで忍耐してこの世に教会を保ち続けてくださっているのです。そして、それだけにとどまらず、今や忍耐して世界中にクリスマスをお示しくださっている、ということなのではないでしょうか。世界中のありとあらゆるところで祝われるクリスマスは、教会が成し得ないでいることを、神ご自身がお始めくださっていることの表れなのではないでしょうか。

旧約日課・イザヤ書が描き出していたのは、一人の預言者が新しい預言を語り始めるようにと、神に召された姿です。預言者は、自らは「何と呼びかけたらよいのか」と躊躇する思いを持つのです。自らの力無さはもちろん、世の人々のはかなさを思うと、言葉が見つからないのです。しかし、預言者は語り始めます。「見よ」と、世に向けて語り始めるのです。この世に対する神の情熱に突き動かされたからです。

「主は羊飼いとして群れを養い、御腕をもって集め、小羊をふところに抱き、その母を導いて行かれる」。降誕物語で、飼い葉おけの中に寝かされた幼子のもとに、羊飼いたちが訪ねる場面があります。しかし、むしろ、この世界で起こっているクリスマスの出来事の中で、主が羊飼いとして、世界中の人々を御子のもとへとお集めになろうとされているのではないのでしょうか。

「わたし」ではない方を！

洗礼者ヨハネは、イザヤ書の描く預言者の一人として、福音書に紹介されています。ヨハネが、主イエスに先立って、そのお働きのための道備えをした者として、初代教会以来、理解されてきたからです。

福音書日課・マルコ福音書は、そのことを、イザヤ書を引用して示すに際して、イザヤ書にはない言葉、「見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、あなたの道を準備させよう」を加えています。マラキ書(3:1)の御言葉です。ヨハネは、主イエスよりも「先に遣わされる使者」なのです。けれども、マルコが、この福音書の冒頭にこのマラキ書の御言葉を真っ先に置いたのは、ただヨハネのこととして示すためだけだったのではないと思います。マルコは、この福音書を読み、また聞く読者に対して、この御言葉をもって呼びかけているのではないでしょう。

この聖句をイザヤ書と矛盾しないように読めば、「あなた」は主イエスのことです。「あなたの道」とは、「主の道」のことです。主イエスは、わたしたちのために天の御父に至る道、神の国に至る道を拓いてくださいました。その道を拓く準備をする使者として、ヨハネが遣わされた、と理解するのは、正しい理解でしょう。けれども、マルコは、それだけでないものを、読者の心に届けていると思うのです。「あなた」は、まさに読者です。「あなた」より先に、神は、使者として主イエス・キリストを、この世にお送りくださって、「あなた」の道がまっすぐの道になるように整えてくださったのです。

そればかりではありません。その主イエスと出会う前に、わたしたちが主イエスと出会う道を備えてくれた、別の使者がいたのではないのでしょうか。わたしたちを、かつて、クリスマスへと誘ってくれた親や友です。わたしたちを教会へと導いてくれて、聖書の御言葉へと誘ってくれて、わたしたちは、主イエスと出会う道を備えられてきました。そして今、わたしたちは、わたしたちに続く、次の「あなた」のために、使者として遣わされる者でもあるのです。

洗礼者ヨハネは、そのような、「あなた」であり、「使者」ともされる、わたしたちのために、道備えをしてくれた存在でもあるのです。

ヨハネは、イザヤ書の預言者に倣いました。自分のことではなく、自分の後においでの方、いいえ、自分が紹介しようとしている方のことを、語りました。「わたしは…その方の履物のひもを解く値打ちもない」と、自分のことはどこまでも低くしました。そのようにしてしか、幼子としてお生まれになられ、最も低いところにおいでになられた、御子イエス・キリストを、伝えることができなかつたからです。ヨハネにできたのは、ただ、御子キリストを指し示して、人々を水に浸め(洗礼を授け)、その人が自分自身を捨てることまでです。御子キリストが、その人を、聖霊の中へと浸め(洗礼を授け)、神の霊の息吹を始めるように、導いてくださるのです。

御子を迎える道を整えましょう。わたしたちのために、わたしたちの周りの「あなた」のために。神は、すでにこの世へと先んじてくださっています。